

近現代史(10)「19世紀ロシア史② ロシア帝国～ロマノフ朝～」

【1】 [① アレクサンドル1世 ](位 1801～25)

○ナポレオン戦争

- ・1805年[② アウステルリッツの三帝会戦 ]に敗北。
- ・1807年ティルジット条約でナポレオンの[③ 大陸封鎖令 ]に協力を強制される  
→イギリスへの穀物輸出によりナポレオンのモスクワ遠征を受けるも撃退。ライプチヒ戦争にも参加。

○ウィーン会議

- ・ワルシャワ大公国の大部分を得て、これを[④ ポーランド立憲王国 ]とし、ロシア皇帝が王位を兼任。
- ・キリスト教の友愛の精神に基づく[⑤ 神聖同盟 ]を提唱(イギリス・トルコ・教皇不参加)。

【2】 [⑥ ニコライ1世 ](位 1825～55)

○1825年 [⑦ デカブリストの乱 ]を鎮圧

- ・皇帝即位に際して、ナポレオン戦争で西欧文明に触れた青年将校らが、ロシアの後進性を痛感し、憲法制定を目標として乱を起こす → 鎮圧

○反動的政治

- ・七月革命(1830) → [⑧ ポーランド ]の独立運動を弾圧
- ・二月革命(1848) → [⑨ コッシュート ]らが起こしたハンガリー独立運動で奥の鎮圧軍を援助。

○対外進出

- ・バルカン方面

戦争名	年代	講和条約	結果
ギリシア独立戦争 英仏露希 VS 土埃	1821-29	⑩ アドリアノーブル条約	黒海とボスフォラス・ダーダネルス海峡の自由通行権獲得
第1次エジプト=トルコ戦争 英仏奥埃 VS 土露	1831-33	⑪ ウンキヤル=スケレッシ条約	ロシア軍艦の独占的なボスフォラス・ダーダネルス海峡の通行権獲得
第2次エジプト=トルコ戦争 仏埃 VS 土英露普奥	1839-40	⑫ 海峡協定	ウンキヤル=スケレッシ条約破棄 ⇒ 南下政策失敗!
クリミア戦争 英仏サディニヤ土 VS 露	1853-56	⑬ パリ条約	黒海が中立化 ⇒ バルカン方面への南下に挫折

・イラン方面

- ・カージャール朝ペルシャと 1828年[⑭ トルコ=マンチャーイ条約 ](イランの開国と治外法権)

・極東方面

- ・1847年[⑮ 東シベリア総督 ]を設置。統治権と外交権を与えてロシア領の拡大に努めた。
- ・初代東シベリア総督は[⑯ ムラヴィヨフ ]。次代アレクサンドル2世の時に活躍。

○ロシア=リアリズム文学の発達。

- ・ツァーリズムのもとで政治活動を弾圧された知識階級は文学で活路。ロシア近代文学はロマン主義のプーシキンに始まり、[⑰ ゴーゴリ ]によって専制政治を批判するリアリズム文学へと発展。

【3】【18】アレクサンドル2世】(位 1855～81)

<国内状況>

○1861年【19】農奴解放令】

・【20】クリミア戦争】に敗北したロシアの近代化政策。原則的に領主制を廃止し、農民の人格的自由を無償で解放。土地に関しては有償とされた。多額の「買い戻し金」が課せられたため、その支払いを保障するため土地は多くの場合、ミール(農村共同体)に引き渡され、農民はミールに縛り付けられた。

↓  
・不徹底な解放ではあったが、【21】賃金労働者】への道が開け、資本主義の基盤が形成された。

○1863年 アレクサンドル2世反動化…近代化を目指す自由化は1863年の【22】ポーランド】反乱を招き、皇帝は反動化した。

○【23】ナロードニキ運動】

・ミールという農村共同体にあった相互扶助の伝統に着目し、資本主義を通過しないで、農民を啓蒙することで社会主義を実現しようとする農村工作運動。

・「【24】ヴ・ナロード】(人民の中へ)を合言葉にしてインテリゲンツィア(知識階級)は農村に入っていたが、農民の無関心と政府の弾圧で失敗。

○アレクサンドル2世暗殺

・革命の展望を失ったナロードニキたちは虚無主義(【25】ニヒリズム】)や無政府主義(【26】アナーキズム】)に走り、テロリズム(暴力主義)が台頭。アレクサンドル2世が暗殺される。

<国外状況>

○バルカン進出

・【27】露土戦争】(1877～1878)…ボスニアヘルツェゴビナにおけるギリシア正教徒の反乱をトルコが鎮圧。ロシアはギリシア正教徒の保護を名目にしてトルコに宣戦。【28】サン=ステファノ条約】でルーマニア・セルビア・モンテネグロを独立させブルガリアを自治公国化した。だがイギリス、オーストリアが反発し、ビスマルクは【29】ベルリン会議】(1878)を開催。サン=ステファノ条約は破棄され、南下政策は失敗。

○東方進出 東シベリア総督【30】ムラヴィヨフ】の活躍

□対中国条約

・1858 【31】アイグン条約】…太平天国の乱に苦しむ清に乗じてアムール川以北を領有

・1860 【32】北京条約】…アロー戦争の調停の代償としてウスリー江以東を領有。

・ウラジオストークに軍港を建設。

・1881 【33】イリ条約】…露清間におけるイリ地方での国境画定条約

□1868～76 【34】ウズベク】系3ハン国の征服

・【35】ブハラ=ハン】国・【36】ヒヴァ=ハン】国の保護国化、【37】コーカンド=ハン】国の併合

【4】【38】アレクサンドル三世】(位 1881～1894)

○1891年【39】露仏同盟】…1890年にドイツ皇帝ヴィルヘルム2世から再保障条約の更新を拒否されたことがきっかけとなり、フランスと同盟を結ぶ。1894年には完全な軍事同盟。

○産業革命の本格化…フランス資本の導入、1891年【40】シベリア鉄道】建設。産業革命が本格化し、大量の労働者が発生⇒ロシア革命の伏線となる。

【5】【41】ニコライ2世】(位 1894～1917)

○日露戦争を戦ったり、第一次世界大戦を戦ったり、ロシア革命を起こされたりした皇帝。(詳細は帝国主義で)